



まい ぶん

埋文だより

第38号

平成17年6月24日発行

しば はら わたり ばた い ぶつ

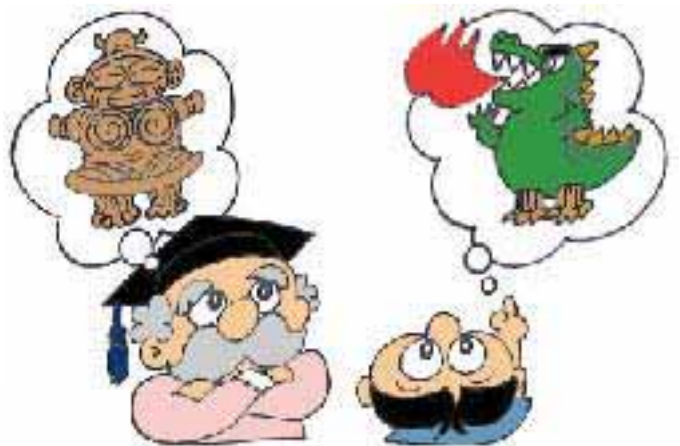
芝原と渡畑両遺跡の出土遺物が接合

昨年6月、方之瀬川流域の芝原遺跡で発見された特殊な形の土製品は「足形」ではないかと注目されましたが、その後、隣接する渡畑遺跡で出土した筒状の土製品とピタリとくっつき、新たな注目を集めています。

芝原遺跡の土製品は長さ約10cmの「足形」。渡畑遺跡の土製品は直径約5.5cm×長さ6cmの楕円の筒形。50mほど離れた二つの遺跡で発見された両土製品は、足首部分でつながり、描かれた凹線文の文様が一致しました。二つを合わせると、足から膝までを形どった一つの土製品となりました。

土偶の足の部分なのか？ 県内はもちろん、全国でも類例のないものだけに想像が膨らみます。

今年は、芝原遺跡から1km上流の上水流遺跡で9月まで調査を行っています。新たな発見も期待されます。ぜひ調査現場にもお越しください。



目次

- ・芝原と渡畑両遺跡の出土遺物が接合 … 1
- ・上野原遺跡発掘20周年 … 2, 3
- ・新体制で今年度がスタート … 4
- ・「センターの仕事」発掘作業編(その1) … 5
- ・平成17年度 発掘調査・報告書作成遺跡マップ … 6

鹿児島県立埋蔵文化財センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。お近くにお越しの節はぜひお立ち寄りください。

埋蔵文化財センターのホームページは上野原縄文の森 (<http://www.jomon-no-mori.jp>) からお入りください。

上野原台地の記憶を
再びひもとく...

上野原遺跡

上野原遺跡は、最初の発掘調査から今年で20年目を迎えました。そこで上野原台地の発掘調査と、ここで暮らした人びとの歴史を振り返ってみたいと思います。

上野原遺跡20年のあゆみ

- 1986年 ・ 第1工区の発掘調査に着手
・ 弥生時代の集落跡を発見
- 1991年～ ・ 第3工区の発掘調査
・ 縄文時代早期後葉の祭祀的遺構を発見
・ 壺形土器や土偶、耳飾り等が出土
- 1995年～ ・ 第4工区の発掘調査
・ 縄文時代晩期や弥生時代の竪穴住居跡や十数列の柵跡を発見
・ 縄文時代早期前葉の竪穴住居跡52基、連穴土坑16基、集石遺構39基、道跡2条などからなる集落跡を発見
- 1997年 ・ 6月2日、須賀龍郎知事が、縄文時代早期前葉の集落跡の現地保存を表明
- 1998年 ・ 6月30日、第3工区出土品767点が国の重要文化財に指定
- 1999年 ・ 1月14日、第4工区の縄文時代早期前葉集落跡が国史跡に指定
- 2002年 ・ 4月 県立埋蔵文化財センターが始良町から国分市の上野原縄文の森に移転
・ 10月「鹿児島県上野原縄文の森」オープン
- 2005年 ・ 6月 企画展「発掘20周年記念展」を開催

ただ今、上野原縄文の森の展示館では、企画展「上野原遺跡発掘20周年記念展」を開催中です。写真パネルや収蔵品、当時の報道映像などをご覧になれます。また、下記の日時で講演会も予定しています。この機会にぜひ上野原縄文の森にご来園ください。

講演日時 平成17年7月30日(土)13:30～15:00
場所 上野原縄文の森展示館 1F 多目的ホール



埋納された最古の壺(重文)

第2工区

第3工区

県立埋蔵文化財センター

発掘20周年

縄文時代早期前葉の集落跡

第1工区

第4工区

上野原縄文の森展示館

第4工区発掘調査風景

上野原台地の生活の跡

- 約9500年前 縄文人が住み始めた。
(集落跡の発見)
- 約7500年前 人びとは安定した生活を営み、独自の精神文化を築いた。
(装飾品や埋められた壺などの発見)
- 約3500年前 人びとが狩猟の場として利用した。
(おとし穴などの発見)
- 約2000年前 人びとが再び集落をつくった。
(畑らしい跡や住居跡の発見)
- 約100年前 人びとが農作業をしていた。
(畑跡、サツマイモ貯蔵穴跡の発見)
- 約60年前 戦時中、探照灯施設があった。
(基礎部分の発見)

このように、上野原台地は約9500年前から人びとの生活の舞台になってきました。

新体制で今年度がスタート

発掘調査体制の充実と業務の効率化をより一層図るため、今年度、センターの組織が改編されました。

その内容は、次長職が1名増え2次長制（事務・技術）となり、調査課を2つの課に分けて調査第一課と調査第二課になりました。その結果、全体では3つの課に1つの室と5つの係という組織になり、次のような業務を担当します。

当センターでは埋蔵文化財の発掘調査を実施し、その保護と活用に努めています。また、発掘調査の成果を公開することによって、県民の皆様に一層文化財に親しんでいただき、郷土愛を培う拠点として充実を図っていきたくと考えています。そのため、全職員が心を一つにして新体制で業務を推進することにしています。遺跡の現地説明会や体験学習活動などにもぜひご参加ください。

埋蔵文化財センター所長

総務課

- ・ 職員の人事，給与，サービス及び福利厚生に関する事
- ・ 予算及び会計に関する事
- ・ 施設・設備の管理に関する事

調査第一課

- ・ 県事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査，資料及び出土品の整理並びに報告書作成に関する事
- ・ 埋蔵文化財の調査に係る指導及び研修に関する事
- 【一係】 ・ 地域高規格道路工事，農業開発総合センター建設，県道改良工事
- ・ 市町村支援
- 【二係】 ・ 河川改修工事・地方特定道路整備

埋蔵文化財 保護と活用の ために

調査第二課

県事業以外の事業（日本道路公団国土交通省など）に伴う埋蔵文化財の発掘調査，資料及び出土品の整理並びに報告書作成に関する事

- 【一係】 ・ 東九州自動車道建設
- 【二係】 ・ 南九州西回り自動車道建設
- ・ 一般国道220号鹿屋バイパス建設等

南の縄文調査室

- ・ 埋蔵文化財に関する調査及び研究，資料の収集，保存及び活用に関する事
- ・ 埋蔵文化財の情報発信に関する事
- ・ 国史跡上野原遺跡の管理及び研究に関する事
- ・ 上野原縄文の森との連携に関する事

【シリーズ】センターの仕事 発掘作業編(その1)

～遺跡の発見～

発掘といえば、土器や石器、住居の跡などを移植ゴテやハケを持って丁寧に掘り出すーそんなイメージを持っている人が多いのではないのでしょうか？

いえいえ、発掘調査はそれだけではありません。他にも、いろいろな作業があるのです。

遺跡の調査は、まず広い畑や荒地を何百m、何kmも歩いて土器や石器のかけらを探し、昔の人びとが生活していた場所を見つけることから始まります。川べりの平地や台地の上などには今でもたくさんの遺跡が残っていて、地面をよく見て歩くと土器や石器が拾える所があります。地図や写真だけでなく、実際に地形を確かめながら歩くことが、遺跡の発見にはとても大切なのです。これを分布調査といいます。

遺跡を見つけたら、場所を選んで2m×5m位の区画を決め、スコップや山鋤で深いところでは2mほど掘り下げ、実際にどのような生活の跡が残されているかを確かめます。蒸し暑い夏の日には深い穴から重たい土を運び上げる作業は、まるでサウナの中で力仕事をするようで、とても大変です。これを確認調査といいます。

その後、発掘調査の計画を立て、本格的な調査を始めます。これを本調査といいます。一度に小学校の校庭ほどの面積を掘ってしまうこともあります。



分布調査で土器などを探す調査員

昔の人びとが生活していた当時の地表面は、現在私たちが生活している地表面と同じではありません。そこで、発掘を始める前に、現代の地表面を削り、切り株などを取り除いて、昔の地表面を丁寧に掘り出していかなくてはなりません。これらの作業はショベルカーなどの重機を使いますが、場所によっては大切な地層を壊してしまわないように、山鋤やスコップなどを使って、手作業で取り除きます。

担当職員のコメント

時には山あいの畑や藪を歩きますが、炭焼き窯や狩り場など、いろいろな場所で人びとが活動した跡を見つけることができます。地元の方々から聞く話が、その場所の歴史を知る大切なヒントになることもあります。そうして発見した遺跡から大切な発見があると嬉しいですよ。



昔の地表面を出す作業

平成17年度

発掘調査・報告書作成 遺跡マップ

- 発掘調査(調査期間)
- ▲ 整理・報告書作成作業
- 赤文字は市町村支援事業

※発掘調査期間等は変更されることもありますので見学・発掘体験をご希望の方は埋蔵文化財センターまでお問い合わせください。



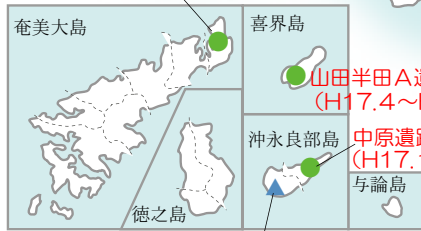
石切場跡(柵城跡)



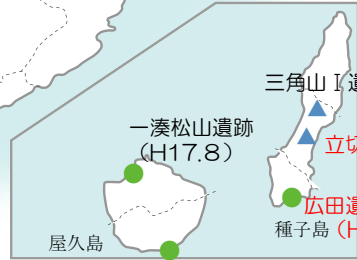
発掘風景(上水流遺跡)



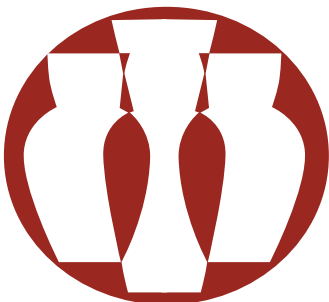
整理作業(センター)



住吉貝塚



恋泊遺跡(H17.5)



このマークは、過去・現在・未来を表す古代の壺形土器が互いに重なり合い、それらを楕円の中に包み込むことで埋蔵文化財保護を表しています。

埋文だより 第38号

発行日 平成17年6月24日
 編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
 〒899-4461
 鹿児島県国分市上之段1175番地1
 TEL 0995-48-5811
 FAX 0995-48-5820
 E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp